

**神はどのように
に祈りに答
えられるのか**



神はどのように祈りに答えられるのか

神が私たちの祈りに答えてくださると、どうすれば確信できるのだろうか。祈りを信じるだけでは十分ではない。例えば、何千人もの母親が祈りを信じ、戦場で息子を守ってくれるよう神に願ったが、息子は殺されたというメッセージを受け取っただけだった。国家全体が平和を祈ったとしても、しばしば戦争の渦に巻き込まれるのはなぜか。

その一方で、自分の子供たちの安全のために神が祈りに答えてくださったことを熱心に証しする何千人もの人々がいる。また、他の何千人もの人々が、自分たちが求めた他の特別な祝福を神が素晴らしい方法で与えてくださったことを証言するだろう。したがって、経験だけを根拠にすると、神はある人の祈りには答えられるが、他の人の祈りには答えられないように思われるかもしれない。

しかし、これは聖書が神について語っていることと一致しない。聖書は、"人を顧みない"と言っている。だから、神がある人の祈りには答え、他の人の祈りには答えないのには、それなりの理由があるはずだ。もしその理由を見つけることができれば、祈りが答えられないと思われている人々の信仰を回復する助けになるはずです。

祈りはクリスチャンの経験において非常に重要な段階である。また、他の多くの宗教の信徒も広く実践している。祈るという欲求は、私たちがより高い力に依存していることを認めることであり、私たち自身よりも外側にある、より高い源からの助けを必要としているという認識の表れである。神は、祈りによって神にコンタクトしようとするすべての人々の誠実な願望を喜んでおられるに違いない。

祈りへのほとんど普遍的な衝動は、もともと人間が神に似せて創造されたという事実によるものだ。人間が罪と死に堕ちた結果、彼の人格における神のイメージはかなりぼやけてしまい、多くの場合、ほとんど消えてしまったが、その名残はまだ残っており

、その表れのひとつが祈りへの衝動である。祈らない人は何百万人もいるかもしれないが、　、祈るべきであると感じ、祈らないことに罪悪感を抱いていることが多い。

神は被造物の祈りの精神を喜ばれる。しかし、ある人の祈りは聞かれるのに、なぜ他の人の祈りは聞き入れられないのだろうか。イエスは、律法学者やファリサイ派の人々の祈りを見て、その答えを示唆している。彼らは人に見られ、人に聞かれるために祈り、その多くを語ることで神に聞かれると思っていたのだ、とイエスは説明された。このことから私たちは、祈りには正しい姿勢と不適切な姿勢、そして正しい方法と間違った方法があることを思い知らされる。多く的人是実かもしれないが、その方法は不適切である。

聖書はまた、祈りには適切なものと不適切なものがあることを示している。使徒ヤコブはこう書いている。(ヤコブ4:3)。神にお願いする特権が何であるかを確認することは極めて重要である。私たちは、

自分が望んでいると思うことなら何でも神に願い、祈りが答えられるとは期待できないのです。

祈りの目的

祈りには神の目的があり、答えられない祈りがある理由を理解するためには、このことを心に留めておくことが非常に重要です。神は祈りを、この地上においてどのように管理すべきかを知る手段として設計されたのではない。神が何をすべきかを私たちに教えてもらおうとはしていないのだ。私たちが神の豊かな祝福を受けるためには、私たちの祈りがそれに調和していることが不可欠なのだ。神が与えようと意図していない祝福を神に願うたびに、私たちは誤った願いをしてしまうのだ。

聖書には、さまざまな祈りが記されている。その最たるものが感謝の祈りである。被造物が神をその祝福の源と認め、そのために神に心と声を上げて感謝するとき、神は間違いなく喜ばれる。

創造主の英知、正義、愛、力といった人格の輝かしい属性を認める祈りもある。神を称えたいという願

いは、私たちの祈りの動機の多くを占めるはずである。

神の憐れみを求める祈りもまた適切である。聖書はすべてのクリスチャンに、祈りという手段を通して神の罪の赦しを求めるよう促している。パウロはこのことを、「大胆に恵みの座に行き」、そこで憐れみを得、あらゆる必要な時に助けとなる恵みを見出すことだと語っている。ヘブル4:16

そしてもちろん、主からの祝福や恩恵を求める祈りもある。今、私たちが特に関心を持っているのは、これらの祈りである。ある人は自分のため、あるいは他の人のために、健康のために祈る。富のために祈る人もいる。旅先での守護を祈る人もいる。平和のために祈る人もいる。戦争で対立している国の国民が、それぞれの軍隊の勝利を祈ることはよくあることだ。私たちは、祈りのために神に向かうすべての人が誠実であり、もちろんその時に最も重要と思われることを神に求めると仮定する。しかし、聖書はこれらの祈りがすべて答えられると信じることを正当化するのだろうか。

戦場での息子の安全を願う母親の祈りに、神が答えてくださるかもしれない。あるいは、国家の平和のための祈り（ ）が答えられるかもしれない。しかし、もしそのような祈りが答えられるとしたら、それは単に、そうすることが神の御心にかなったということである。神には、人類に心を配る、決まった計画がある。その計画は、被造物である人間の気まぐれや願いを満たすために立てられたものではない。

「祈りは物事を変える」と言われるが、それは神の計画を変えるものではない。神は、私たちや世界全体の状況をより良くするために、どのような変化をもたらすべきかを知るために、私たちや各国、さらには国連に目を向けているのではない。民衆の雄弁な祈りによって意見が左右されたり、計画が変更されたりするような神に対して、私たちはどれほど信頼を寄せていることだろう！

"みこころのままに"

神の民は、祈りの中で、神の御心がすべての経験において行われるようにという願いを、一番に心に抱

くべきである。私たちは、イエスのケースにおいて、この顕著な例を持っている。ゲッセマネの園で、主人が逮捕され死に直面したとき、「苦悩と狼狽が彼を襲い、彼は彼ら（弟子たち）に言われた。わたしの父よ、できることなら、この杯をわたしに渡してください。マタイ **26:38,39**

イエスが人間の贖い主、救い主として屈辱と死を受けることは神の御心であった。この神の計画の重要な特徴は、旧約聖書の聖なる預言者たちによって予告されていた。イエスは、それが自分にとってどのような意味を持つかにかかわらず、神の御心が達成されることを何よりも望んだ。後に逮捕されそうになったとき、彼はこのことを確信した。ペテロは師を守るために剣を抜いたが、師はペテロに言った。

ヨハネ **18:10,11**

イエスに従う者は、イエスとともに苦しみ、死ぬ特権を持っている。パウロは、イエスとともに "十字架につけられた "ことを語り、また、こうも書いている。"あなたがたには、キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことも、キリストに

代わって与えられているのです。(ガラテヤ**2:20**、ピリピ**1:29**)。私たちはイエスの足跡をたどるよう求められているので、私たちがすべての苦難から免れることが神の御心ではないことを知っている。したがって、イエスと同じように、私たちの最大の関心事は、主のみこころが私たちの死すべき体においてなされることである。主のみこころは、私たちがしばらくの間、地上の祝福を享受することかもしれないが、私たちの祈りの重荷は、それらのためではなく、主のみこころが行われることであるべきだ。

イエスは、弟子たちがイエスのうちにとどまり、イエスの言葉が弟子たちのうちにとどまっている限り、弟子たちは祈り求めることができる。(ヨハネ**15:7**)。ヨハネ**15:7**)。これは、私たちが思いついたり望んだりすることを何でも神に求めることができるという保証のように思えるかもしれない。しかし、そうではない！

もしあなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら」。キリストのうちにとどまるとは、キリストの体の一員となることで

あり、キリストは私たちの頭である。つまり、キリストの考えが私たちの考えとなり、キリストの計画が私たちの計画となるのである。こうして私たちの意志がキリストを通して完全に神に委ねられたなら、私たちは自分の意志を持たず、祈りは自分の望むものを求めるものではなく、私たちの頭の意志と調和するものだけを求めるものとなる。このように、主の御心と調和して祈ること（ ）により、私たちは好ましい答えを確信することができる。

このことは、イエスが弟子たちに語ったもう一つの言葉と調和している。その中でイエスは、天の父は「聖霊を求める者に喜んで与えられる」と告げている。(ルカ11:13)。神の霊に満たされるということは、神の思いが私たちの思考を支配し、私たちの人生がその思いに適合することを意味する。そうすれば、神が与えてくださると約束された祝福以外を神に求めることはなく、祈りが答えられるかどうか疑問が生じることはなくなる。

「御国を来たらせたまえ

主よ、私たちに祈りを教えてください」という弟子たちの願いに応じて、イエスは現在"主の祈り"として親しまれているものを弟子たちに与えた。この模範となる祈りの中で、私たちは何を祈るべきかの指針を与えられている。

この短い祈りの概要の重要な部分は、神への正しい近づき方である。"天にいます私たちの父よ、あなたの御名が聖なるものとされますように"。(ルカ11:1,2)。聖書では、アダムは"神の子"と呼ばれている。(ルカ3:23,38)。しかし罪を犯したとき、彼は、神から疎外され、死を宣告され、息子としての地位を失った。アダムの子供たち、つまり全人類も同様に、神にとっては異国人でありよそ者であるため、"天におられる私たちの父"と正しく呼ぶことができない。これは、罪を悔い改め、イエスを個人的な救い主として受け入れ、神のみこころを行うために完全に奉獻された人生を神に捧げた者だけに与えられた特権である。このような人々は、神の子としての霊を受け、神の子となったのである。

神の子である彼らは、何よりも父の御名を敬うことを望む。だから、彼らの態度は、言葉によって、また行動によって、常に "御名が聖なるものであるように" となる。天の御父の御名を聖なるものとして正しく敬うということは、私たちが祈りにおいて御父に近づくとき、イエスが聖書の中で私たちのために説明された方法でそれを行うことを意味する。イエスは、私たちの祈りは御名によって捧げられるべきだと説明された。ヨハネ15:16

これには理由がある。正当に裁かれた者として、私たちの弁護者であるイエスによらなければ、私たちは神の恵みの座に立つことはできない。イエスの御名によって、そしてイエスの流された血の功德によって、私たちは「大胆に」恵みの御座（ ）に行き、赦しと、私たちの愛する天の御父が与えると約束された他のすべての祝福を求める特権を与えられている。(ヘブル4:16)。もし私たちがイエスの御名を聖なるものとして正しく尊ぶなら、イエスを通してでなければ、決してイエスに近づくことはできません。

主の祈り』の模範に従うとき、私たちの願いは自分のためというよりも、他者の祝福のためになる。このことは、冒頭の願いに示されている：「御国が来ますように。みこころが天になりますように、地にも行われますように"（マタイ6：10）。（マタイ6:10）。この願いに対する答えは、何世紀にもわたって人々が祈ってきた多くのことに対する答えとなる。その答えは、すべての人々の正当な望みを満たすだろう。それは、主の王国の正しい掟に従うすべての人にとって、平和と健康と永遠の命を意味する。

人類が切望し、何百万もの人々が祈る祝福はすべて、神が予期していたものであり、神がすべての預言者たちによって約束された王国を通して与えられるものである。これらの約束の中には、亡くなった人々の回復を含め、王権が人々に保証する祝福の詳細が数多く記されている。しかし、神は人々の苦しみを顧みず、助けを求める彼らの叫びに耳を貸さなかったわけではない。

戦場にいる息子の無事を祈る母親の場合を考えてみよう。息子を愛している彼女にとって、息子が無事に実家に戻ってくること以上に大切なことはない。しかし、息子は帰ってこない。彼女の最初の思いは、神は気にかけておられない、憐れんでおられない、というものかもしれない。もし神が、彼女が祈ったときに思い浮かべたよりもはるかに満足のいく帰郷を用意してくださったのだと信じることができれば、彼女の気持ちはどれほど違ってくことだろう！

母親は、自分の子供が眠りこけることによって救われるかもしれない苦難や苦しみを、時にはどれほど知らないことだろう。結局のところ、母親も息子も死にゆく人種の一員なのであり、戦場で死ぬのと老衰で死ぬのとでは、果てしなく続く永遠と比べれば、ほんの一瞬の違いにすぎない。このような観点から、私たちは祈りという、神が私たちの願いに答えてくださる方法を学ぶ必要がある。

私たちが神に祈るという事実そのものが、神の知恵と力と愛が私たちの知恵をはるかに凌駕していると

信じていることを認めていることになる。しかし、私たちはしばしばこのことを忘れ、神が私たちの祈りを尊重してくださらなかったと感じる。宣告された人生の長さはとても短い。私たちは、自分が知っているこの短い期間内に成熟に達するかどうかで成果を判断する。しかし、このような観点から神の御業を判断すべきではない。

聖書は神について、"とこしえからとこしえまで"と語っている。(詩篇41:13; 90:2)。たとえそれが私たちの個人的な願いに関係するものであったとしても、神は私たちの短い生涯のうちに、その計画の特定の段階を完了させる必要はない。もし私たちが今日、神の御心に適う特別な祝福を神に祈り、その答えが明日、あるいは明後日まで来なかったとしても、私たちは神への信頼を失うことはなく、答えが来たときに喜ぶだろう。神には「明日」もある。その"明日"の時代、すなわちキリストの王国の千年の時代には、世界が正当に切望し、何百万もの人々が神に求めてきたすべての祝福が、人類に豊かに降り注がれる。このことを認識して、人々はこう答えるだ

ろう：「私たちは喜び、その救いを喜ぶ」。イザヤ書25章9節

"天にあるように"

神は御心に適わない祈りには答えないということを、私たちはすでに学んだ。最も偉大な祈りである「主の祈り」には、この原則が明確に示されている。この祈りは、地上の人々の上に祝福があるようにと神に求めるものである。"みこころが天にあるように地にも行われますように"。

御心に適うことに関して、神は私たちに何と大きな幅を与えておられることだろう！神の意志は天においてなされ、地においても同じようになされることが神の目的なのだ。もちろん、神の意志が天でどのように行われているのか、私たちはそのすべてを知っているわけではないが、
、現在地上に存在する悪が、私たちが天国と呼んでいる霊界の人々の生活を苦しめていないことは、それなりに確信できる。

戦争は神の意志と調和しない悪である。では、私たちは平和のために祈るべきなのだろうか？もちろんだ！たしかに、平和を祈ることなしに、神の御心が

天にあるように地にも行われるように祈ることはできない。しかし、平和のための祈りは、平和を確立するための神のご計画に沿ったものでなければならない。神は王国を築き、政府を樹立すると約束された。イエスはその政府の王となる。イザヤ書はこう書いている。"政府はその肩の上にある"、"その政府と平和の増大には終わりが無い"。イザヤ書9:6,7

間違いなく神は、戦争をなくしたいという人類の熱望に同情の目を向けておられる。国際的な緊張が高まり、戦争が避けられないと思われるとき、敬虔な人々は双方の立場で平和を祈らざるを得ないと感じる。戦争を引き起こす恐れのある相違が解決されるかもしれないし、解決されないかもしれないが、最終的には普遍的で永続的な平和が訪れることを私たちは知っている。それは、
、国々が平和のための実行可能な方式を最終的に見つけるからではなく、
「平和の王子」が地上の支配権を握り、「御国が来ますように」という祈りが答えられるからである。

ミカ書4:1-4には、人々が「主の山に登り、ヤコブの神の家に登り、主の道を教え、主の道を歩もう。

そして、多くの民の間をさばき、遠く離れた強い国々を戒め、彼らはその剣を鋤に打ち込み、その槍を剪定ばさみに打ち込む。彼らはみな、自分のぶどうの木の下、自分のいちじくの木の下に座り、だれも彼らを恐れさせない。"万軍の主の口がそれを語られたからである。

軍縮のための素晴らしいプログラムだ！私たちが平和のために祈り、国々の武装解除を願うとき、神が耳を傾けてくださること、そして神が私たちの祈り（ ）に答えてくださることを確信して祈ろう。「ダビデは預言した。詩篇46:9

"もう死はない"

病気と死は、私たちの最初の両親の罪から生じたものであり、神が滅ぼすと約束された悪の一つである。では、私たちは健康のために祈り、重い病気にかかった親しい人の命を救ってくださるよう主に願えばいいのだろうか？しかし、常に主のみこころが行われることを願い、キリストの王国の千年の間にこれらの祝福がすべての人に与えられるまでは、私たちが祈る人たちに健康と命を与えることは主のみこ

ころではないかもしれないということを理解した上で。

そのとき、すべての病気が治ることを私たちは知っている。「その日、住民は、私は病気だと言うことはしない」とイザヤは書いている（イザヤ**33:24**）。キリストの王国の祝福のいくつかについて、パウロは、キリストはすべての敵がその足の下に置かれるまで支配し、滅ぼされる最後の敵は死であると書いている。（**1コリント15:25,26**）。使徒ヨハネは幻の中で、地上に神の王国が築かれるのを見たとき、その結果、"もはや死はなく、.....もはや痛みもない"ことを悟った。黙示録**21:4**

私たちが健康といのちのために祈るとき、創造主がこれらの祝福を、単に私たちや私たちの愛する人たちだけでなく、キリストの治世の千年の間、謙遜と従順によってこれらの祝福を求める全人類に与えようとした、この大きな備えの意味を理解しよう。御国が来ますように。みこころが天にありますように、地にも行われますように。"マタイによる福音書**6章10節**

"敵の国から"

神の道、神が被造物のために造られた定めは、人間の知恵によって考え出されたものよりも常にはるかに優れている。私たちは健康、保護、平和のために祈るが、愛する死者の回復を祈ろうと考えた人はいらるだろうか？ しかし神は、そのご計画において、私たちが祈ることを前提にしたものを超えておられる。死者を生き返らせると約束されたのだ！

どれほど多くの母親が、大切な幼子を失って心を痛めてきたことだろう。その一人が、預言者エレミヤによって 。彼女の名はラケル。エレミヤはこう書いている。"ラマで、嘆きと苦い泣き声が聞こえた。"ラケルは自分の子供たちのために泣き、慰められることを拒んだ。主は言われる、"あなたの働きは報われ、彼らは敵の地から再び来るであろう"。エレミヤ**31:15,16**

死は人間の最大の敵であり、死の"地"にいるすべての人を生き返らせるのが神の計画である。この大いなる恩恵は、私たちの願いである「御国を来たらせたまえ」にも含まれている。キリストの御国の間、

墓の中にいる死の状態にある者は皆、人の子の声を聞いて、出て来るからである。ヨハネ5:28,29

使徒ペテロは、人間の生への回復を「返還」と表現し、キリストの再臨の後には、この世が始まって以来、すべての神の聖なる預言者たちによって約束された「すべてのものが返還される時」が来ると告げている。使徒言行録3:20,21

ぶどうの木といちじくの木の下で

多くの人が富のため、少なくとも経済的安定のために祈る。老年期を迎えるにあたり、ほとんどすべての人が恐れや不安を抱いている。生計を立てることが不可能になる年齢に達したとき、経済的に安泰なのだろうか？神を信じ、神を愛し、気にかけてくださる方と考える人なら、経済的な保証の必要性に関して神に祈りの目を向けるのは理解できる。

もちろん、世界には経済的に安定していない人々が何百万人もいることは知っている。また、文字通り飢えている人、適切な衣食住のない人も何百万人もいる。神はこれらすべての人々を愛しておられる。もし神が私たちを人生においてより有利な状況で祝

福してくださるなら、私たちはそれをありがたく思うだろうが、神がご自身の適切な時と方法で、すべての貧しい人々や困窮した人々を世話するために備えてくださった愛に満ちた備えを喜ぶ方がよいのではないだろうか。これこそ、神が約束されたことなのだ！

神の約束では、経済的な安定の考えは、自分の「ぶどうの木」と「いちじくの木」の下に住むという考えによって象徴されている。預言者は、すべての人がこうして祝福され、神の備え（ ）が完全なものとなり、"誰も彼らを恐れさせない"ので、恐れが取り除かれると宣言している。ミカ4:4

イザヤ書の預言では、来るべき時代の世界に対する神の祝福について、同様の保証が与えられている。この神の預言者は、その時、彼らは他人が住むために家を建てることもなく、植えて他人が食べることもなく、人々は自分の手のわざを長く楽しむようになると告げている。世界を支配する王国の正しい掟に従い続けるなら、その労苦の実りを永遠に楽しむことができる。イザヤ書65:20-25

イザヤ書のこの預言の章は、その王国時代における神の祝福が、人々の祈りに答えて注がれることを示している。「彼らが呼ぶ前に、わたしは答え、彼らが話している間に、わたしは聞く。(24節)。というのも、彼らが求めている恩恵を拡大する時が来ていないからであり、また、彼らが逆境に陥った経験が、永遠の年月を通して主が与えてくださる祝福を理解する助けとなることを知っておられるからである。

王国が確立されたとき、それはどれほど違っているだろう。瀕死の種族が切望する祝福は、彼らがそのために祈ろうと思う前から手に入るようになる。「彼らが呼ぶ前に、わたしは答える。そして、彼らがその恵みを求めることを学ぶとき、その祈りに対する答えは、祈り手が祈りを終える前に現れたかのように思えるほど、現実的で即座のものとなる。"彼らがまだ話している間に、わたしは聞く。"イザヤ書65章24節

"私たちの日々の糧"

御国が来ますように」という祈りに対する答えには、世界中の敬虔な人々が習慣的に祈っているが、しばしば受け取ることができない多くの物質的祝福が含まれている。私たちは、神がアブラハムに約束されたように、これらの正当な物質的祝福が「地のすべての家族」に流れ始める時が来ることを喜ぶ。(創世記12:3)。一方、奉献された民の祈り、すなわち"天におられる私たちの父よ"と神に呼びかける特権を持つ民の祈りに、神が今どのように答えておられるかを考えてみるのもよいだろう。

これらの人々は、他の誰よりも熱心に、神の国が来ることを祈り続けてきた。イエスが"日用の糧を今日もお与えください"と祈るようにと教えたからである。

これは非常に控えめな願いであり、適切な精神で行われるなら、主が私たちの日々の必要を最もよくご存知であり、主が賢明と思われるどんな備えでも私たちは満足することを認めることになる。その上、イエスの犠牲的な足跡をたどっている者にとっては

、物質的なものよりも霊的な必要の方がはるかに重要であることを認識することが重要である。聖書では、パンは真理、福音の真理、御言葉の真理、神の計画の真理を象徴するものとして用いられている。神は、このいのちのパンで私たちが豊かに養うと約束されたのです。ですから、私たちは、私たちの願いが主に神が約束された霊的な糧のためのものであり、それゆえに神の御心と調和するものであることを知っているので、十分な確信をもってこのように祈ることができるのです。

"私たちが赦すように"

"私たちに罪を犯す者を私たちが赦すように、私たちの罪を赦してください。"主の祈りのこの部分は、
、天の御父が御子をこの世に遣わし、贖い主と救い主とならしめたのと同じ愛の精神に心が満たされている者だけが、心から口にすることができる。この愛は、神の掟に背いて神に罪を犯した罪人を赦すためにある。神は私たちが喜んで赦してくださるが、その条件は、私たちに罪を犯す者たちに対して、私たちが適切な心の態度をとることである。確かに、これは私たちの誠実さを試すものである。

神がその民を赦されるのは、彼らのアダムの不完全性が、キリストの贖いの血の価値（ ）によって覆われていると考えられるからである。つまり、祈る者はキリストを心から信じる者であり、キリストを受け入れ、他のすべてを捨てて師に従っている者なのだ。そのような者だけが、キリストの名によって赦しを請い、祈りによって神に向かうことができるのである。

「悪から救い出してください

"私たちを誘惑に陥らせず、悪から救い出してください。"聖書に記された最初の誘惑は、母エバのものであった。彼女は、墮落したルシファーから蛇を通して、神の掟に背くよう誘惑された。神の掟に背くことを、聖書は 、罪としている。誘惑という言葉は、罪へのあらゆる努力、誘惑、誘惑を表すのに使われる。悪魔はあらゆる誘惑者の中で最も偉大な存在であり、神から離れて不義の道へと誘い込もうとする者たちに、罪深い訴えを提示するために、さまざまな手段を用いる。

「神は人を誘惑しない」とヤコブは書いている。(ヤコブ1:13)。つまり、神が私たちが誘惑に導くことはないということである。

祈りの中で、私たちはこの保証を主張するのだ。これとは対照的な"私たちが悪からお救いください"という言葉は、どれほど希望を抱かせることだろう。欺く大罪人である悪魔は、何世紀にもわたって人間、特に神の民に影響力を及ぼし、彼らを創造主から遠ざけてきた。その結果は悲劇的なもので、世界は罪と利己主義に支配されている。(ガラテヤ1:4)。しかし、神は"禽獣の罠"から、そして禽獣がこの世に生み出した悪から救い出すことを約束されている。詩篇91:3

神の解放の約束は、イエスの足跡をたどっているすべての人にとって個人的な関心事であり、サタンが、彼らを罠にかけたり陥れたりすることがないことを保証しているからである。個人として、神は日々、私たちを過ちと罪というサタンの落とし穴から救い出してくださる。「詩篇の作者はこう書いている。"主の御使いは、主を恐れる者を囲み、彼らを救

い出される”。(詩篇34:7)。私たちが "悪から救い出してください "と祈るとき、この約束を自分のものとして主張することがどれほど嬉しいことか。

神の民、キリストの教会全体がキリストとともに支配する「最初の復活」には、さらに大きな解放がある。(黙示録20:4,6)。イエスは、「地獄の門は真の教会に勝つことはない」と言われたが、この約束の成就のために、地獄の門(死の条件)は大きく開かれ、キリストとともに苦しみ死んだすべての人は死から解放され、栄光へと昇格して、キリストの王国の千年間を通してキリストとともに君臨するのである。

この輝かしい解放のために、教会はこの福音時代のすべての世紀を通して待ち望んできた。キリストの真の弟子たちは、この解放はキリストが再臨されるまで訪れないことを知っていた。パウロはこのことを知っていて、自分のために義の冠が蓄えられていて、「その日」、それを受けると書き、キリストの出現を愛するすべての人も同様に「冠」を受けると付け加えた。

この時代の終わりに関するイエスの偉大な預言、すなわち、今日の世界の状況の多くを特定した預言の中で、イエスは弟子たちにこう言われた。(ルカ 21:31,28)。主が予告された "これらのこと" が、この邪悪な現世からの教会の解放が間近に迫っていることを示すものであることが、日々のニュースのオンパレードの中ではっきりと見分けられるようになったという事実は、私たちに、キリストの真の信者のうち最後に残った者たちが間もなく解放され、キリストとともに栄光と誉れと不死へと昇華され、その時、キリストが渴望しておられる王国の祝福が、苦しみ瀕死の人類に流れ始めるという確信を与えてくれる。

私たちが「悪から救い出してください」と祈るのは、悪の世界から解放されることを切望しているからだけではなく、この願いへの答えが、私たちのもうひとつの願いへの答えを意味することを知っているからでもある。みこころが天にあるように、地にも行われますように"。このように考えてみると、クリスチャンの祈りのうち、自分にとって最も意味の

ある祈りは、同時に、全人類のための豊かな祝福を考えているので、無私の祈りでもある。

このような祈りこそ神が喜ばれる祈りであり、すなわち無私の祈りである。神が喜ばれるのは、人々が神に個々の導き、赦し、霊的な強さを求めるときであるが、同時に、神が愛されるすべての人、すなわち人類全体にも関心を持ってほしいと願っておられる。御国を来たらせたまえ」と祈るとき、私たちは神の民を祝福する計画への関心を示す。死が勝利に飲み込まれ、すべての顔から涙が拭い去られるのは、その王国の中なのだ。イザヤ25:6-8; 黙示録21:1-5

何よりも、すべての人の永遠の喜びのために備えてくださった神の愛に絶えず感謝しよう。祈りの中で個人的に賛美するだけでなく、全世界にその愛を伝えよう。キリストによって人々が生きるための備えがなされ、やがてその王国は「平和の君」によって平和（ ）を、贖い主であり救い主である神によってすべての人に健康と命を与えてくださることを。